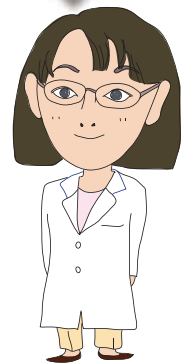


定期的な婦人科検診を受けましょう 後編

子宮頸がんQ&A

婦人科医師 山田 智子

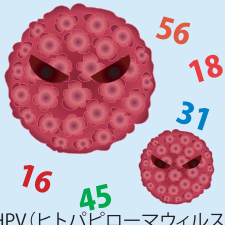


Q1

中学生・高校生の頃に子宮頸癌の予防ワクチンを受けているので、子宮がん検診はうけなくていいでしょうか？

A1

性交渉の経験がある場合には、受ける必要があります。子宮頸癌の発がんには、前編でも書きましたが、HPVの子宮腔部への感染が関与していることが分かっています。特に発がんとの関連が判明しているハイリ



HPV(ヒトパピローマウイルス)

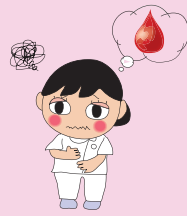
スクタイプは十数種類ありますが、ワクチンで予防できるのはその内の二種類(16・18)のみなのです。今のところすべてのハイリスクHPVの感染を予防する手段はないため、定期的な検診は必要です。

Q2

月経の終わりにくらいで、少量のみの出血ですが、検診を受けても大丈夫ですか？

A2

当院で行っている細胞診は液状化細胞診で多少の血液が混入していても、検査ができるタイプなので大丈夫



Q3

です。但し従来の塗抹標本の細胞診の場合には、出血が多く血液が混じってしまうと、正確な判定ができなくなってしまう、再検査が必要になる場合もあります。基本的には月経期間の検診はお勧めしません。

A3

子宮筋腫で子宮を摘出しているのに、婦人科検診の必要はありませんか？

確かに子宮全摘を施行されている場合には、子宮頸癌の可能性も子宮体癌の可能性もありませんので、がん検診の必要性はないと考えます。但し患者さんによっては、子宮筋腫の手術でも子宮全摘ではなく、腔上部切断術と言って子宮頸部を残した術式になっている場合もあります。この場合には子

宮頸癌の可能性はありますので、検診が必要です。また卵巣を残してある場合には、卵巣疾患の可能性もあります。検診で見えることは少ないですが、卵巣のチェックのために受診してもいいと思います。通常の外来での保険受診でも構いません。

Q4

人間ドックの際にHPV検査を勧められました。が、受けた方がいいでしょうか？

A4

ハイリスクHPV検査のことで、当院では子宮がん検診と同時に実施することができます。今まで検査したこ

